

最近の鋼鐵市場

戰時中著しき活躍を演じ休戦と共に大暴落を告げ其後兎角不振勝ちなりし鐵物市場は、昨年六月頃より追々恢復商狀に向ひ、今年二月に入りては更に著しく強調を呈し最近に至り外國相場依然漸騰商狀を續け然も積出し遅延勝ちの傾向濃厚となるや市場稍々熱氣を帶び、二月中、十一圓内外なりし棒鐵は昨今にては遂に十五圓の高相場を現すに至り茲に遂に再び戰時的相場を出現するに至れり、今休戦後より昨今に至る鐵價の趨勢を示すに左の如し。

年 月 次	四分丸	六分丸
大正八年一月	九、二〇	八、二〇
同 二月	八、〇〇	六、七〇
同 三月	七、二〇	五、六〇
同 四月	七、八〇	五、九〇
同 五月	五、八〇	六、二〇
同 六月	九、一〇	六、五〇
同 七月	九、八八	七、七〇
同 八月	九、四〇	七、六〇
同 九月	八、八〇	七、六〇
同 十月	九、三〇	八、五〇

同 十一月 八、七〇 八、〇〇
 同 十二月 八、八〇 八、一〇
 大正九年一月 九、六〇 九、〇五
 同 二月 一一、五〇 一一、五〇
 同 三月 一五、五〇 一五、〇〇

印ち大正八年一月は休戦後一ヶ月餘を経過したるに拘らず尙四九分九圓以上を維持し居たるが、三月に至り著しく休戦の影響を齎し六九分の如き五圓六十錢の安値を現したり、而して右表は平均的標準相場にして實際市中取引は三圓見當の投物さへありたりと云へば如何に慘落の程度大なりしかを知るべし然るに其後一般人氣も追々平靜に復し實需筋の買物弗々生ずるに及びて相場は漸次恢復の狀を呈するに至れるが尙充分の活躍を見るに至らず、昨年下半年末に至り米國市場の漸騰、入荷不如意なる等の好材料ありて大勢は漸騰商狀を辿りたるも其歩調甚だ遅々たるものにて遂に十圓臺に上る能はざりき、然るに大正九年度に入るや一般財界の好勢に刺戟され加ふるに米鐵積出し困難の事情益々明白となり、爲めに市場は著しく活氣を帶び殊に最近に於ては一部の思惑的買物も加はりて遂に十五圓の高相場を出現するに至れる次第にて戰時中の高値に追々接近せんとせり、只厚板は戰爭中造船不足の關係にて五十圓に上りたるも昨今は十三圓見當に過ぎざる者ありと雖も這は全く特別の事情にて一般鋼鐵市場は近來大體に於て戰時中の相當好況なりし時代にまで恢復し來れりと云ふを得べし。